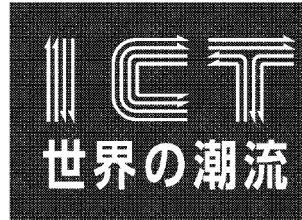


年月日

18
10
26ページ
12

NO.

PART6 15



インシ큐アテックがもたらす保険の変革

国際社会経済研究所
(NEDOグループ)主幹研究員



大平 公一郎

などによる取り組みが着実に進んでいる。

A—I活用始まる

我々が日常生活を送る中で、いざという時に助けてくれるのが保険である。この保険の分野でも人工知能(AI)やIoT(モノのインターネット)、モバイルなど新しい情報通信技術(ICT)の活用が進んでおり、フィンテック(金融とICTの融合)が決済、融資、資産運用を主な対象とするのに対し、保険(インシキュアランス)×技術(テクノロジー)でインシキュアテック(IoT)でインシキュアテックと呼ばれている。

AIなどを十分に活用するためには、企業内にある情報の電子化が欠かせないが、保険会社は既存の保険会社

システムでは、コールセンターにおいて顧客との通話をAIが音声認識技術でテキスト化し、アドバイザーに最適な回答候補を提示する。海外でも、カナダのManulifeや米国のGEICOなどが音声認識を活用した取り組みを進めている。

今、最も注目されているテクノロジーにAIがあるが、保険業界でもコールセンターや日本ではまだ認知度が低いが、海外ではインシキュアテックと呼ばれている。例えば損保ジャパン日本興亜の「アドバ

事故の写真から外部・内部のダメージの状況を判断し、修繕に係る費用を見積もることが可能である。

また、米国のTractableのAIは損害の調査などでAIによって、車両の映像をあらかじめ学習してお

り、スマートフォンな

業務効率化・販売網変える

英國のインシキュアテック展示会



英國のインシキュアテック展示会

層をを集め、代理人として保険会社と保険組成の交渉を行うソーシャルブローカーも登場している。英國のBo

客がインターネット経由で保険会社と直接つながるオンライン販売が普及しつつあり、特にスマートフォンの利用が進んでいる。英國で多様な分野でグループを形成、会員数は50万人を超える水準に至る。

このようにインシキュアテックは業務プロセスの効率化や販売チャネルの変化につながっている。次回は注目度が大変に高いIoTの活用やインシキュアテックの新しいビジネスモデルなどを紹介したい。

インターネットや会員制交流サイト(SNS)を利用し、既存の保険商品にはないニーズを抱く保険需要を持つ顧

(金曜日に掲載)